



G8 開発大臣会合（概要）

1. 日程・場所 平成20年4月5日～6日、東京

2. 参加国・機関

- ・ G8 諸国：日、米、英、独、仏、加、伊、露、欧州委
- ・ アウトリーチ国：ブラジル、中、印、インドネシア、マレーシア、メキシコ、韓国、南ア
- ・ 国際機関：AU委員会、ASEAN事務局、OECD、UNDP、UNESCO、UNICEF、WHO、世銀

3. 議題

- ・ G8 セッション：「北海道洞爺湖サミットの開発分野の課題」
- ・ アウトリーチ・セッション：
 - 「開発のためのパートナーシップの拡大」（含：新興援助国との協力）
 - 「気候変動と開発」
 - 「人間の安全保障とミレニアム開発目標の達成」

4. 結果概要

- TICAD IV、北海道洞爺湖サミットの開発分野の課題の方向性について、G8間で概ね合意が得られた。
- G8各国が、開発援助の取組を強化する決意を再確認した。 高村大臣から、2007年の我が国ODA実績が世界第5位となる中、日本のODAの減少傾向を底打ちさせ、反転を目指す決意を述べた。
- ・ 保健、水、教育の分野でミレニアム開発目標（MDGs）の達成に取り組む上で、我が国が提唱している「人間の安全保障」の視点や、幅広い関係者とともに「全員参加型」協力を進めていく重要性について広く理解が得られた。
- ・ 気候変動が重要な開発課題であるとの認識を共有。 我が国の「クールアース・パートナーシップ」をはじめ、G8諸国の途上国支援のイニシアティブに歓迎の意が表明された。
- 新興援助国、課題別基金、民間財団等の新たな開発協力の担い手の役割の重要性を認識。 新興援助国との情報共有を進め透明性を向上させることの重要性、実際的かつ具体的な協力を進める重要性が確認された。
- 貧困削減や開発途上国の自立のために、経済成長の重要性を確認。 経済成長を促進するために民間セクターの役割が特に強調された。